

宇都宮南図書館周辺の遺跡

～埋蔵文化財センターが発掘調査した遺跡から (1)～

「この20年の間に、本図書館周辺の
区画整理、インターパーク、北関東自動
車道建設などの開発に伴って、多くの遺
跡（昔の人々が暮らした跡やお墓の跡な
ど）が発掘調査されました。」

発掘調査とは、地下に埋蔵されている祖先の生活の痕跡を、考古学的手法により明らかにし、記録として後世に残すことです。今回の展示では、埋蔵文化財センターで行ったこれらの発掘調査の成果の一部を紹介します。」

す な た う ば ぬ ま
砂田姥沼遺跡

— 宇都宮市砂田町地内—

砂田姥沼遺跡は、宇都宮市の南東部、鬼怒川と田川の間南北にのびる低い台地上にあります。発掘調査は、「インターパーク宇都宮南」の土地区画整理事業に先立ち、平成10年度と17年度に実施しました。調査した場所は、現在の中央公園の東側300mあたりです。

発掘調査では、古墳時代から平安時代にかけてのたくさんの^{たてあなじゅうきよあと} 竪穴住居跡や^{ほったてばしらたても} 掘立柱建物跡のほか、井戸・^{どこう} 土坑・溝跡などが発見されました。また、これらの遺構からは、土器（^{はじき} 土師器・^{すえき} 須恵器）や鉄器（^{やじり} 鏃・^{とうす} 刀子）・^{といし} 砥石・^{ぼうすいしゃ} 紡錘車・^{まがたま} 勾玉などが出土しています。

注目されるのは、古墳時代の始まりの頃の竪穴住居跡が2軒発見されたことです。これまで「インターパーク宇都宮南」地内では、古墳時代から平安時代の竪穴住居跡を1,000軒ほど調査しましたが、古墳時代の始まりまで遡る竪穴住居跡の発見は初めてです。また、このうちの1軒は、古墳時代の土器（土師器）と一緒に弥生土器が出土しました。このほか、古墳時代の終わり頃から奈良時代のムラの中を流れる水路を行き来する通路状遺構なども発見されています。

権現山遺跡

— 宇都宮市東谷地内 —

ここで紹介する権現山遺跡は、平成 12・13 年度に県道 すずめのみやもおか 雀宮真岡線の改良工事に先立って発掘調査が実施されました。道路の拡幅部分のみの調査のため、遺構の多くは全てを発掘することはできませんでしたが、調査の結果、古墳時代の竪穴住居跡 6 軒のほか、土坑 67 基・溝跡 7 条などの遺構と、はじき 土師器や すえき 須恵器などの土器、まがたま 勾玉・うすだま 臼玉・ぼうすいしゃ 紡錘車などの せきせいさいぐ 石製祭具が発見されました。

ここに紹介する 8 号住居跡は、5 世紀中頃（約 1,550 年前）のもので、たくさんの わん 埴・たかつき 高坏・かめ 甕などの土器のほか、ちよっこもん 直弧文という珍しい文様が描かれた紡錘車が出土しました。

権現山遺跡はこれまで、「インターパーク宇都宮南」や北関東自動車道の建設に伴う発掘調査で、古墳時代の しゅちょうきょかんあと 首長居館跡のほか、たくさんの竪穴住居跡（387 軒）・ほったてばしらたてもものあと 掘立柱建物跡（14 棟）・古墳（10 基）などが発見されています。また、周辺には大形前方後円墳の ささづか 笹塚古墳（墳長 100 m）をはじめ大小 えんぶん 円墳が群在しており、どうめき 百目鬼遺跡・すぎむら 杉村遺跡・いそおか 磯岡遺跡・たての 立野遺跡などの集落跡も確認されていることから、古墳時代中期の社会を考える上で、モデルケースとなりうる地域です。

コラム



特別な道具

権現山遺跡の住居跡（SI-08）からは、直弧文ちよつこもんと言う特別な模様もようをつけた糸つむぎの道具が出土しました。道具は繊維に縋りしゆつどをかける時の弾み車はすくるま（紡錘車）で、石を材料に作られています。

模様は石に彫られたもので、魔除けなどの意味があると言われていいます。奈良時代には布を神様に捧げる儀式があります。その前の時代にも、この神聖な紡錘車に巻かれた糸が、神前に捧げられたのかも知れません。



直弧文線刻紡錘車出土状況

いそおかきたこふんぐん

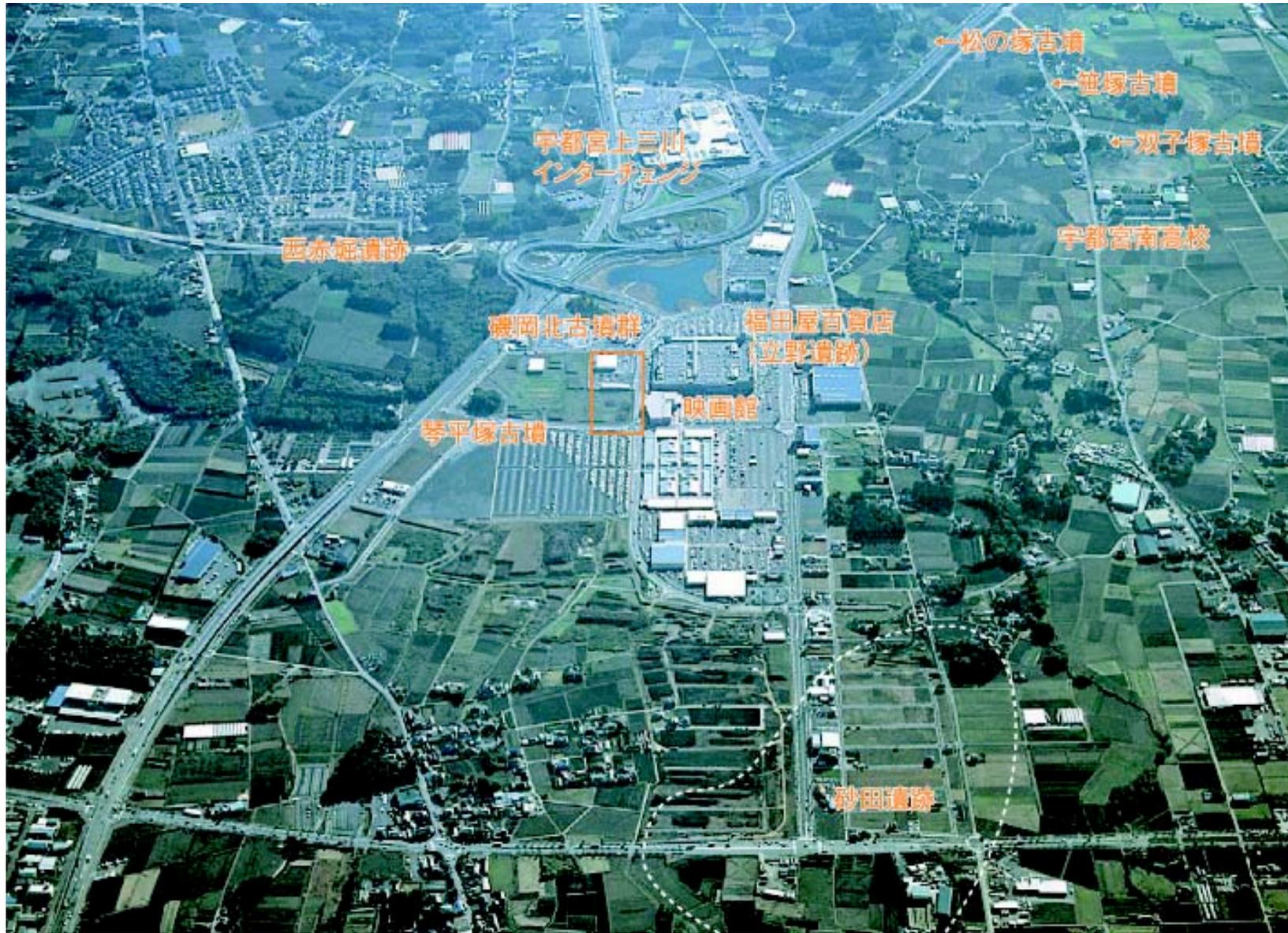
磯岡北古墳群

－ 宇都宮市インターパーク6丁目 －

磯岡北古墳群の発掘調査は、平成12年から14年まで「インターパーク宇都宮南」の土地
区画整理事業に先立って行われました。

調査では、今からおよそ1,550年前（古墳時代中期）の有力者のお墓（古墳群）9基や、
それより少し古いころの家の跡（^{たてあなじゅうきょあと}竪穴住居跡）1軒などが見つかりました。また、古墳の周
りからは、墓穴5か所と埴輪を^{はにわ}棺^{ひつぎ}に使ったお墓、河原石を組んだ小さなお墓なども見つかり
ました。

これらのお墓からは、青銅製の鏡や鉄製の刀や矢尻、ベル、馬に乗るための道具のほか、死
んだ人のお供えや葬式に来た人の食事に使った^{はじき}土師器（赤色の土器）や^{すえき}須恵器（灰色の土器）
がたくさん出土しました。



磯岡北古墳群の周辺（平成 17 年撮影・北の空から）

埋蔵文化財センターロビーでの資料展示

埋文センターが発掘調査した朽木の遺跡

にしあかぼりいせき
西赤堀遺跡

にしふざかし
- 河内郡上三川町大字 西 汗 -

西赤堀遺跡は、宇都宮・上三川インターチェンジの東側に位置します。発掘調査は、平成13年度から15年度にかけて北関東自動車道の建設に先立って行われました。

その結果、調査区中央の低地（まいぼつだに埋没谷）をはさんで、西側からたてあなじゅうきよあと竪穴住居跡（59軒）やほったてばしらたてもものあと掘立柱建物跡（2棟）、井戸跡（4本）など古墳時代後期から奈良時代（今からおよそ1,400～1,200年前）にかけての集落跡、東側から古墳時代後期の有力者のお墓（古墳群）が見つかりました。

竪穴住居跡からは、当時使われていたつき坏・わん椀・かめ甕・こしき甑などの土器や、かま鎌やかなはし鉄鉗などの鉄製品、よ糸を燃るためのぼうすいしゃ紡錘車などが出土しました。また、古墳は周堀外側で直径30～35mの円墳で、死んだ人を入れる石の部屋（石室）からは、くつわ馬具（あぶみ轡・ちよくとう鐙）や刀（やじり直刀）・じかん鏃・耳環などの鉄製品が出土しています。

